

重要文化的景観の選定等

《重要文化的景観の新選定》 1件

1 錦川下流域における錦帯橋と岩国城下町の文化的景観【山口県岩国市】

山口県東端部の岩国市に所在するこの文化的景観は、岩国城下町を由来とする。この城下町は、慶長5年（1600）の関ヶ原の戦いのすぐあと、軍事的緊張が残る周防と安芸の国境付近に、旧山陽道と瀬戸内海を見渡せる山を城山として開かれた。藩主居館や諸役所、重臣の屋敷等が置かれる城山の麓と、中下級の家臣屋敷や町人町等が置かれる岩国山の麓を、錦川が大きく隔てることを特徴とする城下町である。

城下町整備における護岸や水路、各時代の建造物等には、河川氾濫や内水氾濫に対する備えと共に、川と密接に関わる時代ごとの暮らしが表れる。

それを代表する一つが錦帯橋である。河床が安定した平瀬を選び、流されない橋を目指し、延宝元年（1673）に当時の建築土木技術の粋を集めて架橋されたもので、登城路と大手虎口を直線的に繋ぐ。その独特な姿は周囲の自然と共に景勝をなし、名所となつて物見の賑わいをもたらしてきた。また、それが経済活動や文化活動を支え、城下町の趣を伝える町並みに、木造三階建の旅館、時代の特徴を示す店舗、桜並木等の新たな景観を調和的に生み出してきた。人々の環境保全の努力も伴い、近世の刷物に描かれる風景が良好に引き継がれている。

自然の特性を踏まえた開発が都市の個性を生み、往来の賑わいを生み、産業を育むという関連を示す独特な事例として貴重である。

《重要文化的景観の追加選定》 1件

1 近江八幡の水郷【滋賀県近江八幡市】

内湖の環境を引き継ぎ、伝統的な地場産業であるヨシ生産と密接に関わる西の湖全域を、重要文化的景観として一体的に継承するため、現在は湖西半部を中心とする「近江八幡の水郷」の範囲に、平成22年の市町村合併以前は旧安土町域であった東半部を追加する。